

# Exploring Ties Between Japan and Portugal

## ポルト大学 (Universidade do Porto) について

ポルト大学は、1911年に創立されたポルトガルを代表する国立大学です。所在地は、ポルトガル北部の美しい港町ポルト市。学生数は約3万人、14の学部を持ち、医学・工学・建築など幅広い分野で世界的に評価されています。

ポルト大学は、ポルトガル国内で最大規模の大学のひとつであり、国際的な研究や学生交流にも積極的に取り組んでいます。歴史的な建物と近代的なキャンパスが融合した環境で、学問と文化の中心地として知られています。建築学部は特に有名で、世界的な建築家を多数輩出しています。

The University of Porto, founded in 1911, is one of Portugal's leading public universities. It is located in the northern city of Porto, famous for its historic center and port wine. With around 30,000 students and 14 faculties, the university is recognized internationally for excellence in medicine, engineering, architecture, and many other fields. It is one of the largest universities in Portugal, actively promoting research and academic exchange worldwide. The campus combines historic architecture with modern facilities, making it a vibrant hub for learning and culture. Its Faculty of Architecture is world-famous, having produced many renowned architects.



世界で最も美しい本屋のひとつ、リブラリア・レロ。幻想的な螺旋階段と歴史ある空間が魅力です

ポルト市を流れるドウロ川に架かるアラビダ橋。優美なアーチの景観を彩ります

## 長崎大学で学ぶポルト大学の学生

### MEET OUR STUDENT

**Q1. なぜ日本、そして長崎大学を選んだのですか？**  
日本文化が好きで、日本語も独学で2年半勉強しました。MEXT奨学金を利用できることも大きな理由でした。ポルトガルでは博士課程の奨学金の獲得が難しく、日本で学ぶ機会を得られたことはとても幸運でした。教授の紹介で長崎大学の研究者とつながり、現在のテーマに取り組むことになりました。

**Q2. 研究テーマを教えてください。**  
魚類やヘビの毒に含まれるタンパク質の構造と作用を解析し、毒素を無効化する治療法の開発を目指しています。現在は長崎大学の海野先生と共同で、毒魚のタンパク質解析を進めています。計算化学と実験の両面からアプローチし、タンパク質の精製と構造解析を行っています。

**Q3. なぜこのテーマを選んだのですか？**  
きっかけはポルトガルでの修士課程で出会った計算化学です。分子レベルで医療に貢献できる研究に魅力を感じ、修士課程ではバイオテクノロジーと合成生物学を学びました。毒素研究は新薬開発に直結する可能性があり、社会的意義が大きいですと考えています。

**Q4. 将来の目標は？**  
大学教授として研究を続け、途上国で問題となっているヘビ咬傷などの熱帯病対策に貢献したいです。製薬企業が手を出しにくい分野だからこそ、学術研究で社会に役立ちたいと思っています。

**Q5. 日本での生活はどうか？**  
言語の壁はありますが、日本人々とはとても親切です。長崎の坂道はランニングには少し大変ですが、街の雰囲気や文化を楽しんでいます。

**Q6. 趣味や日本での生活は？**  
ランニング (最長25km)、アニメ鑑賞 (ジョジョの奇妙な冒険など)、そして Nintendo enthusiast! 昔からコンソールのゲームが大好きです。長崎の坂道はランニングには少し大変ですが、日本文化を楽しみながら学業と研究に励んでいます。



氏名: SANTOS RACHAO RUI PEDRO  
出身国: ポルトガル  
所属: 長崎大学博士課程1年目。  
魚類やヘビの毒に含まれるタンパク質を解析し、新しい治療法の開発を目指しています。趣味はランニング、アニメ鑑賞、そして Nintendo enthusiast



毎日一緒に実験を行っている学生



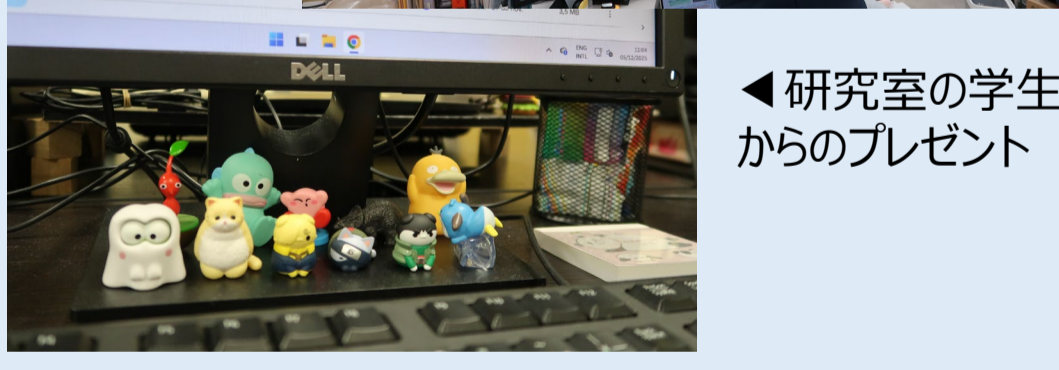
海野先生とサントスさん



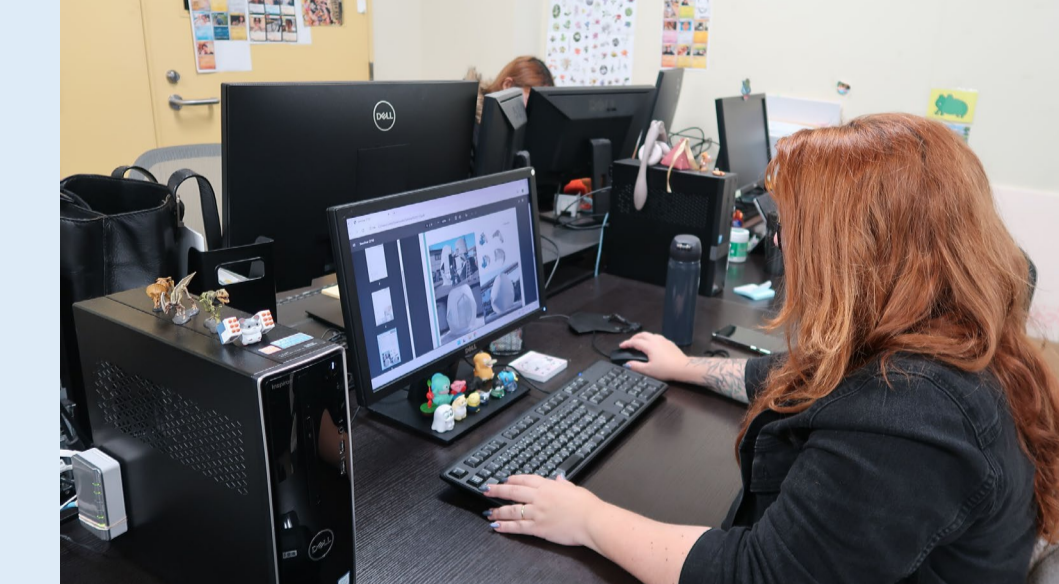
氏名: TATIANE VITORIANO ROSSI  
出身国: ブラジル  
所属: ポルト大学 修士課程 (長崎大学に3カ月滞在中)  
3Dプリンティング技術を活用した災害時の仮設住宅の設計について研究をしています。趣味は読書、旅行、アニメ鑑賞、3Dプリンティングenthusiast



安武先生の研究室の様子



研究室の学生さんからのプレゼント



### MEET OUR STUDENT

**Q1. どんな研究をしていますか？**  
現在、長崎大学の安武先生の研究室で3カ月間滞在し、災害時に使える仮設住宅を3Dプリンティングで作る研究をしています。安武先生の研究室は都市計画や災害時の仮設住宅に関する研究で実績があり、私のテーマと非常に親和性が高いと感じました。日本は地震や災害対応の知識が豊富で、ここで学ぶことは世界に活用できると考え、この研究室を選びました。

**Q2. なぜ日本を選んだのですか？**  
日本は災害対応の専門知識が世界的に評価されており、学んだことをグローバルに活かせると思いました。また、日本文化や建築に強い興味があり、ずっと来たいと思っていました。

**Q3. Erasmusプログラムについて教えてください。**  
渡航費や生活費をサポートしてくれる奨学金があります。日本は距離が遠いので、最大額の支援を受けています。滞在中は家賃や食費もカバーできるので、研究に集中できます。

**Q4. 日本での生活はどうか？**  
英語でのコミュニケーションは難しいですが、長崎の方はとても親切で、理解しようと努力してくれます。夫と一緒に滞在していて、休日は一緒に旅行を楽しんでいます。

**Q5. 将来の夢は？**  
3Dプリンティングは建築の未来だと思います。修士を終えたら、企業と連携して博士課程に進み、災害対応や低コスト住宅の実現に貢献したいです。

**Q6. 日本で訪れたい場所は？**  
すでに大阪と東京に行きました。これから京都や富士山にも行く予定です。日本の文化や建築をもっと体験したいです。

## Erasmus+を通じた学術交流 ポルト大学の先生をお迎えしました

**Erasmus+ (エラスムス・プラス) とは？**  
European Region Action Scheme for the Mobility of University Students Erasmus+は、EUが実施する教育・研修・若者活動・スポーツを支援する国際プログラムです。予算は約262億ユーロ (前回のほぼ2倍) で、2021~2027年の期間に次の重点を置いています：  
○ 誰も取り残さない社会づくり (社会的包摂)  
○ 環境にやさしい取り組み (グリーン化)  
○ デジタル化の推進

長崎大学はポルト大学とErasmus+協定を締結しています。この枠組みを活用し、欧州とのネットワークを拡大しながら、研究連携や事務職員の国際化にも取り組んでいます。



João F. Proença (ジョアウ・F・プロエンサ) 教授

ポルト大学経済経営学部 (FEP UPorto) の教授。2023年より学術管理部門責任者、学士・修士・博士課程の教育に携わり、学部長やヨーロッパ大学学長を歴任。研究分野はB2Bマーケティング、サービスマーケティング、産業ネットワーク、サステナビリティ。

## 第8回 Nagasaki University International Staff Week 開催!

長崎大学は、EUの奨学金制度 Erasmus+ Program を活用し、ポルトガル・イタリア・トルコ・ルーマニアの大学と国際交流を進めています。今回、ポルトガルのポルト大学 João F. Proença 教授をお迎えし、2025年7月14日 (月) ~18日 (金) に「第8回 International Staff Week」を開催しました。

- プログラムの内容：  
・経済学部での特別講義  
・サービスマネジメントの最新動向と戦略  
・教員向け研究発表  
企業ブランドとサービス品質の関係発表後には活発な意見交換が行われました。

長崎大学の国際交流や留学生支援について情報共有を行った後、長崎歴史文化博物館を訪問し、ポルトガルと長崎の歴史を学びました。今後、経済学部の成田真樹子准教授がポルト大学で研修を行います。これからも国際交流の輪を広げていきます！



## 学術交流のタイムライン

**2008年9月**

駐ポルトガル日本国大使がポルト大学を訪問、長崎の大学との学術交流協定の提案がなされた。

**2010年11月**

片峰学長、小路副学長 (国際担当)、松山医学部長がポルト大学の学長を訪問し、学術交流協定書の締結を行った。



**2017年**

Nagasaki University International Staff Week開催 経済学部でポルト大学及び新リスボン大学より8名の職員受け入れ。

**2020年8月**

学術交流協定及び学生交流に関する覚書の更新について検討を開始。

**2023年**

Erasmus+ Program (Mobile23)の合意書を締結。

**2025年**

経済学部教員1名派遣、総合生産科学研究科にてポルト大学生1名受け入れ、工学研究科 2名受け入れ、Proença教授受け入れ。

**2010年1月**

小路副学長 (国際担当)、高木副学長 (拠点担当)、佐藤国際交流課長がポルト大学の学長を訪問し、学術交流の打合せを行った。

**2016年6月**

学術交流協定を更新し、学生交流に関する覚書を新たに締結した。

**2018年**

経済学部で3名の学生受け入れ・医歯薬学総合研究科1名 教授 経済学部 教授1名 派遣。

**2021年3月**

学術交流協定の更新を行った。

**2024年**

Erasmus+ Program (Mobile24)採択、Pedro de Sousa Gomes先生 医歯薬総合研究科で受け入れ。

